絹本著色（けんぽんちゃくしょく）十六羅漢像　一覧表

番　号	名　前	住　処
第一尊者	賓度羅跋囉堕闍（ひんどらばらだじゃ）	西瞿陀尼（さいくだに）州
第二尊者	迦諾迦伐蹉（かなかばつさ）	迦湿弥羅（かしみら）国
第三尊者	迦諾迦跋釐堕闍（かなかばりだじゃ）	東勝身（とうしょうしん）州
第四尊者	蘇頻陀（そびんだ）	北倶盧（ほっくる）州
第五尊者	諾距羅（なこら）	南贍部（なんせんぶ）州
第六尊者	跋陀羅（ばつだら）	耽没羅（たんぼら）州
第七尊者	迦理迦（かりか）	僧迦荼（そうかだ）州
第八尊者	伐闍羅弗多羅（ばつじゃらほつたら）	盍剌太拏（はらだど）州
第九尊者	戍博迦（じゅばか）	香酔（こうすい）山
第十尊者	半託迦（はんたか）	三十三天（さんじゅうさんてん）
第十一尊者	囉怙羅（らごら）	畢利颯衢（びりようく）州
第十二尊者	那伽犀那（ながさいな）	半度波（はんどば）山
第十三尊者	因揭陀（いんかつだ）	広脇（こうきょう）山
第十四尊者	伐那婆斯（ばつなばし）	可住（かじゅう）山
第十五尊者	阿氏多（あした）	鷲峯（じゅぶ）山
第十六尊者	注荼半託迦（ちゅうだはんたか）	持軸（じじく）山

～金龍寺の「十六羅漢像」とは？～

今回複製を展示する金龍寺の十六羅漢像（以下、本図）は、寺伝によると曹洞宗の開祖・道元（1200～1253）が中国・天童山（てんどうさん）で修行を積んだのち、帰国する際に南宋の理宗（りそう）皇帝（在位1224～1264）から賜ったものであるとされています。道元は、羅漢像を福井県の永平寺（えいへいじ）で供養した後、鎌倉の建長寺（けんちょうじ）に贈りました。本図はその後、鎌倉幕府の執権・北条氏の手に渡りましたが、北条氏を滅ぼした新田義貞により菩提寺である金龍寺に納められたといわれています。

一般的な羅漢像は、その絵柄から大きく2つの種類に分けられます。

1つは、豪快で怪異的な形相が特徴の「禅月様（ぜんげつよう）」。もう1つは、写実的な描写が行われる「李龍眠様（りりゅうみんよう）」です。本図は「李龍眠様」の様式で描かれています。

羅漢像を祀（まつ）るときは、ふつう釈迦図などを中心にして配置します。本図を順番のとおりに並べていくと、尊者2人ずつが対になるように構成されています。これは、奇数の尊者が画面に向かって左側を向き、偶数の尊者が右側を向くように描かれているためです。

表現技法としての特徴は、金泥（こんでい）を使い、衣装等に精密な模様を施している点にあります。背景の図に中国の宋代の山水画らしい特色がありますが、樹木の表現に新しい技法が見られる点から、本図は宋代の羅漢像に影響を受けた鎌倉時代後期のわが国で作られたものと考えられます。

本図は、16幅の羅漢像がすべて揃っており、保存状態も良好であることから、大正6（1917）年に国の重要文化財に指定されました。現在は茨城県立歴史館（水戸市）に寄託され、なかなか見ることのできない作品です。年に4幅ずつ製作してきた複製は、令和2（2020）年に全16幅の製作が完了しました。ぜひご覧ください。